

公害研究所年報の創刊に寄せて

昭和46年10月の機構改革で衛生局公害部が公害局として昇格し、それにもなつて公害研究所、公害監視センター等の機関もスタートして、それぞれ建物の建設が行なわれてきました。公害監視センターは昭和47年8月に完成し、公害研究所も48年12月に完成し、まことに喜びに存じます。

公害局の発足、監視センター、公害研究所の建設は、伊藤市長の重点施策であります「公害から市民を守るための——公害作戦の展開」の大きな柱であります。

公害研究所の使命はいりまでもなく、公害行政、防止対策の科学的基礎となるデータづくりをはじめとし、様々な研究等、その質、量ともに重大なものであります。なかでも川崎市の公害行政のニーズに応じた試験研究を的確に処理できるものでなくてはならないと思います。多岐にわたる試験、検査、研究を何もかもということは無理かと思いますが、最新の技術の導入により、日常の業務が正確かつ迅速にできるような体制づくりも当面重要課題の一つと考えます。

そこで、これまでの業務、諸データをまとめた年報の創刊はささやかではありますが、明日への記録として意義深いものと考えます。

なお、今後の公害対策によりよく寄与できるよう公害研究所の充実に努力していく所存ですが、関係各位の御支援、御鞭撻を仰ぐ次第であります。

昭和49年 2 月

川崎市公害局長

寺 部 本 次

序

川崎市公害研究所が設立されて、はじめての年報を発行することができました。市政の中の環境衛生評価の重要な業務として、昭和31年川崎市衛生試験所にはじめられた公害調査の仕事が原点となって、それが川崎市衛生研究所への発展という過程で、多くの業績が積み重ねられてきました。この年報はその意味で、衛生試験所以来の永年にわたる一つの伝承的な公害調査研究報告書であります。

川崎市が指定都市として、立地的、経済的、社会的に、きわめて有利な、条件下におかれている反面、また公害では現在なお多くの問題が横たわっているばかりでなく、新たな問題もおこりつゝあります。このような状況のもとで、市民の健康保護という困難な市行政に寄興すべき公害研究所の公害調査研究成果には、内外から多くの期待がかけられております。設立以来ようやく軌道に乗りつゝある公害研究所の日常業務の間に進められてきた研究の成果の一端をこゝに収録し、川崎市公害研究所年報といたしました。

川崎市公害研究所は当初衛生研究所の中に場所をかりて調査研究業務をはじめましたが、昭和48年12月に新しい研究所の庁舎が完成し、研究業務の発展拡充を進めてゆきたいと思っております。

この年報の発刊にあたり、これらの研究に多大の御理解と御支援を賜った川崎市衛生研究所長福田諒博士をはじめ、同所員御一同に対して、深甚なる謝意を表します。

川崎市公害研究所長

山 口 裕